

Nara National Museum

# 奈良国立博物館 だより

第81号

平成24年4・5・6月



重要文化財 仏涅槃図(陸信忠筆)(部分) 当館蔵(展示期間6/19～7/16) 一名品展「珠玉の仏教美術」より

特別展

御遠忌800年記念特別展  
**解脱上人 貞慶**  
—鎌倉仏教の本流—  
4月7日(土)～5月27日(日)  
東・西新館

特別陳列

古事記の  
歩んできた道  
—古事記撰録1300年—  
6月16日(土)～  
7月16日(月・祝)  
西新館

名品展

珠玉の仏たち 珠玉の仏教美術  
通期開催 4月7日(土)～  
なら仏像館 7月16日(月・祝)  
西新館  
中国古代青銅器  
通期開催  
青銅器館(坂本コレクション)

特別展

御遠忌八〇〇年記念特別展

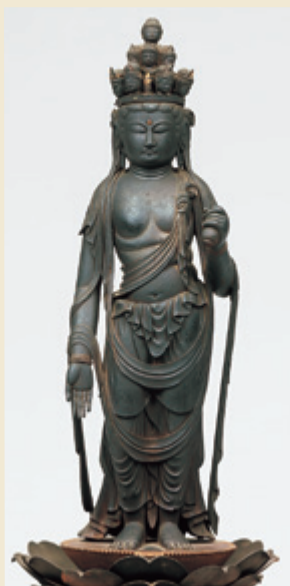
# 解脱上人貞慶

## —鎌倉仏教の本流—

4月7日(土)～5月27日(日)

今年は、解脱上人貞慶(一一五五～一二二三)の八〇〇年遠忌の年

にあたります。鎌倉時代前期に活躍した貞慶は、はじめ興福寺で学僧として活動し、後に笠置寺へ、さらに海住山寺へと移りました。戒律を大切にした貞慶は、釈迦如来・弥勒菩薩・観音菩薩・春日明神をとりわけ深く信仰し、由緒ある寺々の復興や仏教の再生に大きな貢献を果たしました。御遠忌を機に、貞慶の魅力を多くの方々に知っていただくため、この特別展を開催いたします。



◎十一面観音立像(京都・海住山寺)



◎金亀舎利塔(奈良・唐招提寺)



解脱上人貞慶像(部分) 奈良・唐招提寺  
背景: 明本鈔 卷第十三(部分) 奈良・興福寺



◎笠置曼荼羅(大和文華館) (展示期間4/7～5/6)



春日権現験絵 卷十六(部分) (宮内庁三の丸尚蔵館) (展示期間4/24～5/20)



特別陳列

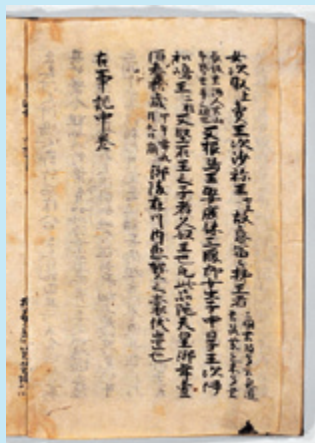
# 古事記の歩んできた道

— 古事記撰録1300年 —

6月16日(土) ～ 7月16日(月・祝)

平成二十四年(二〇一二)は、和銅五年(七一二)に『古事記』が撰上されてから、ちょうど千三百年の記念の年に当たります。

本展は、『古事記』の現存最古の写本(真福寺本)を中心に、そのテキストを補完する古写本、奈良時代に日本語で書かれた資料、本居宣長をはじめ後世に『古事記』を研究した人々の著作などを展示し、『古事記』という書物が千三百年にわたって読み継がれてきた、その軌跡を描くものです。



●古事記 中巻 巻末部分(愛知・宝生院)  
(展示期間: 7/10～7/16)



古事記(梵舞本)上巻(國学院大學図書館)



◎太安萬侶墓誌(文化庁)

特別展 予告

# 頼朝と重源

— 東大寺再興を支えた鎌倉と奈良の絆 —

7月21日(土) ～ 9月17日(月・祝)

治承四年(一一八〇)の南都焼き討ちにより、東大寺は伽藍の大半を失うとともに、日本仏法の象徴たる盧舎那大仏にも甚大な被害が及びました。この未曾有の法難に際し、仏法を再生すべく大勧進として再興事業を指揮したのが俊乗房重源です。重源は後白河法皇の支援のもと大仏の鑄造や大仏殿の建立をなど次々に成し遂げますが、建久三年(一一九二)に法皇が崩зると、その後を受けた源頼朝が最大の外護者となります。頼朝は資金や物資の調達のみならず、大仏殿安置の巨像群の造立を御家人に分担させるなど、まさに「大檀越」と称されるにふさわしい活躍でこの大事業を支えました。

本展では、運慶・快慶らによって生み出された新時代の幕開けを象徴する仏像の数々や、重源の思想が色濃く反映された宝物、再興の経過や当時の時代の空気を伝える品々を一堂に集め、また従来注目されることの少なかった柴西・行勇の活躍にも光を当てることで、半世紀余りに及ぶ再興の軌跡をたどります。



●藤原朝臣藤原時範墓誌(神奈川・鶴岡八幡宮)



●源頼朝像(京都・神護寺)



●重源上人坐像(奈良・東大寺)





五鈷杵(施福寺)



埴輪犬(当館)



●十一面観音像(当館)



●金剛般若経開題(空海筆)(当館)

名品展

珠玉の仏教美術

西新館

絵画

▼4月7日(土)～5月13日(日)

●諸観音図像

印仏集

六字経曼荼羅

補陀落山浄土図

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

●十一面観音像

▼6月19日(火)～7月16日(月・祝)

●仏涅槃図(陸信忠筆)

●十王図(陸信忠筆)

●五百羅漢図

(林庭珪・周季常筆)

●北斗九星像

観音菩薩・地藏菩薩像

水月観音像

万五千仏図

●白衣観音像

白衣観音像

釈迦三尊十大弟子像

地藏十王図

●施餓鬼図

●覚禅鈔 白衣観音法

探幽縮図(仏画集)

五百羅漢図(渡辺秀実筆)

個人

▼4月7日(土)～5月13日(日)

●大般若経 卷第二百四十六

(長屋王願経)

諸菩薩求仏本業経

(五月一日経)

大般若経 卷第五百八十八

(魚養経)

大方等大集経菩薩念仏

三昧分巻第五

不空罽索毘盧遮那大灌

頂光真言(中尊寺経)

金剛三昧経 卷下(神護寺経)

如意輪法

●神護寺如法執行問答

(明恵筆)

●観尊書状

法華経(宗性願経)

●華嚴十重唯識瑞鑑記

卷第四(凝然筆)

梵網戒本疏日珠鈔

卷第三十(凝然筆)

▼5月15日(火)～6月17日(日)

月燈三昧経 卷第六

阿闍世王経 卷下

仏母孔雀明王経(中尊寺経)金剛寺

大般若経 卷第四百十八

(東大寺八幡経)

●金剛般若経開題(空海筆)当館

●弘法大師御勘文

●伝教大師求法書等

悉曇藏

▼6月19日(火)～7月16日(月・祝)

華手経(五月一日経)

別訳雑阿含経 卷第十

(五月十一日経)

●大毘盧遮那成仏神変加持経

(古備田利願経)

●広弘明集 卷第十七

(中尊寺経)

法華経 卷第七(紺紙金字)当館

大毘盧遮那成仏神变加持経

卷第四(消息経)

●豊前国仲津郡丁里戸籍断簡当館

造仏所作物帳断簡

写一切経所解案

●造東大寺司請経牒

万昆嶋主解

●越中国砺波郡石栗村官

施入田図(東大寺開田図)当館

●越中国射水郡鳴戸村墾田

図案(東大寺開田図)当館

●越中国射水郡鹿田村墾田

図案(東大寺開田図)当館

●大和国添下郡京北班田図 西大寺

考古

▼4月7日(土)～7月16日(月・祝)

土偶(山形県杉沢遺跡出土)当館

注口土器ほか

(小野コレクション) 当館

(青森・岩手県出土) 当館

銅鐸

銅鐸形土製品

(三重県鈴鹿市上箕田出土) 当館

勾玉浴范

(福岡県弥永原遺跡出土) 当館

●奈良県天神山古墳出土品 当館

奈良県二塚古墳出土品 当館

埴輪犬 当館

軒丸瓦・軒平瓦 法隆寺

(法隆寺若草伽藍出土) 当館

軒丸瓦(山田寺跡出土) 当館

軒丸瓦・軒平瓦 法隆寺

(法隆寺西院伽藍出土) 当館

軒丸瓦・軒平瓦 当館

(奈良県山形村跡出土) 当館

蓮華文鬼瓦

(奈良県山形村跡出土) 京都国立博物館

軒丸瓦・軒平瓦 当館

(奈良県東大寺出土) 当館

軒丸瓦・軒平瓦 当館

(島根県出雲国分寺出土) 当館

鬼面文鬼瓦 個人

(伝奈良県大安寺出土) 個人

●山城忌寸真作墓誌

行基舍利瓶残欠 当館

●佐井寺僧道業墓出土品 当館

●荻野古墓出土品 当館

●青磁牡丹唐草文深鉢

(奈良県正暦寺出土) 正暦寺

粉河経塚出土品 当館

白浜経塚出土品 当館

松蓮寺経塚出土品 当館

春日塔跡出土品 当館

奈良国立博物館

敷地内出土品 当館

工芸

▼4月7日(土)～7月16日(月・祝)

●透彫舍利容器

●火焰宝珠形舍利容器

能作性塔 個人

金亀舍利塔 長谷寺

百万塔 当館

三重小塔 当館

三重小塔 当館

経筒 施福寺

●透彫経筒 万徳寺

●透彫華鬘 金色院

阿弥陀三尊十二光仏鏡像 個人



●阿弥陀如来鏡像	当館
蔵王権現鏡像	当館
男神対向鏡像	当館
熊野三所権現懸仏	個人
熊野十二社権現御正体	当館
柄香炉	当館
柄香炉	高山寺
柄香炉	個人
仙蓋形水瓶	当館
王子形水瓶	当館
信貴形水瓶	当館
布薩水瓶(魚口形)	当館
三鈷杵(古式三鈷杵)	当館
三鈷杵(古式三鈷杵)	当館
鏡	円福寺
三鈷杵	当館
羯磨	当館
五鈷杵	施福寺
五鈷杵	当館
◎四大明王五鈷鈴	当館
◎四大王五鈷鈴	弥谷寺
五大明王五鈷鈴	当館
梵釈四天王五鈷鈴	当館
●宝相華唐草文華籠	神照寺
華籠	性海寺
蓮華化生文説相箱	個人
説相箱	個人
念珠	当館
◎錫杖頭	個人
錫杖頭	施福寺
▼4月7日(土)～5月13日(日)	
◎宝篋印塔嵌装舍利厨子	当館
●牛皮華鬘(登号)	当館
刺繍阿弥陀三尊来迎図	中宮寺
刺繍阿弥陀三尊来迎図	個人
刺繍釈迦阿弥陀二尊像	当館
鉢	当館
◎五獅子如意	東大寺
▼5月15日(火)～6月17日(日)	
●一切経箱	大長寿院
●牛皮華鬘(知号)	当館

❖ 第41回 奈良国立博物館 夏季講座 ❖

「鎌倉時代の南都仏教」

毎年恒例の夏季講座も本年で第41回を迎えることとなりました。今回のテーマは「鎌倉時代の南都仏教」です。

奈良国立博物館では、この春に特別展「解脱上人貞慶―鎌倉仏教の本流―」が、そして夏に特別展「頼朝と重源―東大寺再興を支えた鎌倉と奈良の絆―」が催されます。これに関連して、今回の夏季講座では鎌倉時代の東大寺復興や南都仏教の興隆と変革をとりあげ、日本史、美術史など様々な研究分野の第一線でご活躍の先生方をお招きし、最新の研究成果や美術作品の解説をしていただきます。

特別展の観覧も含めて3日間の充実した連続講座です。奮ってご参加下さい。

刺繍釈迦三尊来迎図	真正極楽寺
刺繍阿弥陀如来来迎図	個人
刺繍阿弥陀三尊来迎図	当館
刺繍種子阿弥陀三尊像	当館
念珠箱	当館
▼5月15日(火)～7月16日(月・祝)	
◎宝相華文如意	当館
▼6月19日(火)～7月16日(月・祝)	
◎孔雀文戔金経箱	浄土寺
●牛皮華鬘(呂号)	当館
刺繍両界曼荼羅	太山寺
刺繍六字名号	宝鏡寺
刺繍種子阿弥陀三尊像	禅林寺
刺繍阿弥陀如来来迎図	長岳寺
持蓮華	西光寺
※◎＝国宝、◎＝重要文化財	
※すべての展示において、	
内容を一部変更する場合があります。	

御遠忌800年記念特別展  
解脱上人貞慶 ―鎌倉仏教の本流―

❖ 解脱上人 貞慶フォーラム ❖

ゆかりの社寺が一堂に集まり、解脱上人貞慶との関わりを語る、初めての試みです。宗派を超え、今も特別の存在であり続ける貞慶の姿が見えてくるに違いありません。

日 時	平成24年5月5日(土・祝) 13時～15時30分(開場は12時30分から)		
参加社寺	海住山寺、笠置寺、春日大社、興福寺、唐招提寺、東大寺、法隆寺、薬師寺(五十音順)		
会 場	東大寺総合文化センター内 金鐘ホール		
内 容	13:00～13:05 挨拶 湯山 賢一(奈良国立博物館長)  13:05～13:25 貞慶さんってどんな人? 西山 厚(奈良国立博物館学芸部長)  13:25～15:30 各パネリストによる講演と全員によるフリートーク  大野 玄妙 師(法隆寺管長) 佐脇 貞憲 師(海住山寺住職) 花山院 弘匡 氏(春日大社宮司) 多川 俊映 師(興福寺貫首) 北河原 公敬 師(東大寺別当) 西山 明彦 師(唐招提寺宗務長) 小林 慶範 師(笠置寺住職) 山田 法胤 師(薬師寺管主)  コーディネーター 西山 厚(奈良国立博物館学芸部長) ※五十音順		
定 員	300名(全席自由)		
参 加 費	1,000円		
チケッ	チケットは、ローソンチケット(電話:0570-084-005、Lコード:55129)および当館観覧券売場で好評発売中です。 ※フォーラムのチケット(半券) 提示で特別展観覧料(当日券)が200円割引となります。		
問い合わせ先	奈良国立博物館 総務課 企画推進係 電話 0742-22-4450 ※月～金(祝日を除く)9時～17時		

開催日:平成24年8月21日(火)～23日(木)

主催:奈良国立博物館

会場:奈良県新公会堂 能楽ホール

※昨年とは会場が変わりました。お間違えのないようご注意ください。

受講料:3,500円

※会場費、テキスト代などを含みます。  
受付決定後に振り込んでいただきます。

定員:500名

※先着順。ただし定員数の8割を超えてから到着した応募は、奈良国立博物館バスポートメンバーを優先し、抽選で残りの受け入れを決定します。  
※日程・講師等:決定次第、ホームページやチラシ等で告知します。

応募方法:往復はがきによる、郵送に限ります。  
※往復はがきに「夏季講座参加希望」と書き、[氏名・住所・郵便番号・電話番号・性別・年齢]を明記して下さい。  
奈良国立博物館バスポートメンバーの方は、カード番号もお書き下さい。  
※返信用はがきには宛名を記入して下さい。  
※はがき1枚につき申込者1枚として下さい。

受 付 開 始:5月 7日(月)

応募締め切り:7月18日(水)必着

※受付開始日より先着順で随時受付いたします。  
定員の8割を超えてから到着した分は、優先者と当選者を決定の上、受入の可否を7月27日(金)までにご連絡いたします。

申し込み先:〒630-8213 奈良市登大路町50  
奈良国立博物館 教育室

問い合わせ先:教育室  
電話 0742-22-4464  
FAX 0742-22-7221

【表紙写真解説】

重要文化財  
**仏涅槃図**  
陸信忠筆

中国 南宋(13世紀)  
当館蔵

釈迦が大きな体を横たえ、口元にほほえみを浮かべながら目を閉じている。上方からは釈迦の母摩耶夫人が釈迦の入滅を聞き訪れる。周囲の者は釈迦の横たわる台に上がりこみ、ある者は悲しみの表情を浮かべ、ある者は釈迦の入滅を信じられないのか、体を揺るするような仕草である。一方で前方の僧は比較的落ち着きを見せて手を合わせる。正面では仏涅槃の後に供養のために行われたという舞踊が繰り広げられる。

鮮やかな色彩や生々しい表情が特徴的な絵画であるが、画面向かって右側、釈迦の横たわる宝台の脇にある墨書銘から、中国浙江省の寧波地域で、陸信忠という画家によって製作されたことがわかる。陸信忠の名は他に十王図や羅漢図など、日本に伝存した絵画の銘文に認められるものの、中国の絵画史上には残っていない。そうした状況から、陸信忠は地元で活躍した画家で、こうした絵画は寧波を経由して中国へ行き来した僧や商人らによって日本に持ち込まれたと考えられている。本図は愛知県の宝寿院伝来で、もとは隣接する津島神社の牛頭天王社に奉納されていた。

北澤 菜月（当館学芸部研究員）

● サンデートーク ●

「第3日曜日は奈良博へ！」

毎月一回、第3日曜日の午後に、当館研究員や専門家がおきのお話をいたします。美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。お気軽にご参加下さい。

聴講は無料、展覧会観覧券等の提示は必要ありません。事情により話題内容が変わることもありますので、詳しくは当館ホームページをご参照の上お出かけ下さい。

- 4月15日 「金亀舍利塔の話」  
内藤 栄（当館学芸部長補佐）
- 5月20日 「奈良国立博物館と東日本大震災」  
岩戸 晶子（当館学芸部研究員）
- 6月17日 「『奈良官遊地取』 芳崖の古美研  
原 瑛莉子（当館学芸部研究員）
- 7月15日 「東アジアの仏教絵画」  
北澤菜月（当館学芸部研究員）
- 8月19日 「雨を祈る 請雨修法と奉幣」  
斎木 涼子（当館学芸部研究員）
- 9月16日 「古地図を読みとく、再び。」  
野尻 忠（当館学芸部企画室長）
- 10月21日 「第三回 茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」  
吉澤 悟（当館学芸部情報サービス室長）
- 11月18日 「図像から彫像へー十二神将像にみる仏師の創造性ー」  
山口 隆介（当館学芸部研究員）
- 12月16日 「仏像調査からわかること その2」  
岩田 茂樹（当館学芸部長補佐）

各回とも午後2時～3時30分(午後1時30分に開場)  
当館講堂にて  
定員194名(先着順)  
聴講無料

◆奈良国立博物館賛助会

平成24年3月31日現在、一般会員（個人）39名、一般会員（団体）19団体、特別会員5団体、特別支援会員5団体のご入会をいただいております。新しく加入された方をご紹介します。

【一般会員(個人)】 吉本 健吾 様（平成24年2月ご入会）  
鶴飼 禮子 様（平成24年3月ご入会）  
鍵岡 瑋典 様（平成24年3月ご入会）

◆キャンパスメンバーズ

平成24年3月31日現在、「キャンパスメンバーズ」の会員大学等は以下の通りです。

大阪成蹊大学芸術学部、大阪大学、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、京都伝統工芸大学校、京都文教大学・京都文教短期大学、近畿大学文学部・近畿大学大学院文学研究科、実践女子大学・実践女子短期大学、就実大学人文学部、帝塚山大学・帝塚山高等学校、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良産業大学・奈良文化女子短期大学・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部（以上、五十音順）

## 重要文化財 青磁碗・皿

〔島根県出雲萩村古墳出土品〕

当館蔵

碗：口径13.4～13.8cm、 皿：口径17.1cm  
中国・南宋（13世紀）

古い時代のお墓、とりわけ身分の高い人のお墓には、その時代のお宝が副葬されていることが多い。現代においても文字通りの「宝庫」で



あるが、こと焼物に関しては、完全な形を留める優品の大半はお墓を出所としていてと考えてよい。本品はまさにそうした優品の一例である。

昭和40年（1965）、出雲平野を流れる斐伊川左岸が開墾された際に、小さな微高地が掘削された。地表には宝篋印塔の残骸が散り、地下には常滑の大甕が埋設されていたことから、そこは鎌倉時代のお墓であったことは間違いない。甕の中から発見されたのは、若干の人骨とこの青磁の碗・皿3口だけだったので、墓の主はさぞかしこの器に愛着をもっていたと思われる。

碗は、外面に25葉の鎗蓮弁を表した端正な作りで、爽やかな翡翠色の青磁釉がむらなくかかる。高台の地付部分のみ、釉を掻き取り露胎としている。この肌の赤褐色が、夢心地に広がる翡翠色の緑をきりと引き締めている。中国・南宋時代の龍泉窯の産とみて間違いなく、日本国内の伝存品でも屈指の名品である。色も形も素晴らしく、手にとって鑑賞してもらえないのが口惜しい。皿は碗と同質だが、鎗は内面に設けられており、見込みに草花文の陰刻がなされている。

鎌倉時代の出雲でこれだけの逸品を所有できた人は、いったい誰であろうか。そして入手ルートは？ 具体的な名前は私たちにも挙げられない。しかし、愛蔵品の質の高さをみるかぎり、舶来品に「目がない」人、しっかりした審美的「眼がある」人、であったのは間違いない。

吉澤 悟（当館学芸部情報サービス室長）

◆西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて4月7日から7月16日まで展示

## 名品展の みどころ

## 刺繍釈迦阿弥陀二尊像

当館蔵

刺繍

縦127.0cm 横52.0cm  
鎌倉時代（13～14世紀）



刺繍で仏の像を表す繡仏は、一般にはなじみの少ない作品であろう。しかし、古代のわが国ではさきわめてポピュラーな造像表現の一つであり、平城京の薬師寺講堂に懸けられた刺繍阿弥陀浄土図のように大寺院の主要堂宇の本尊とされる例もあった。しかし、平安時代になると繡仏の製作は急激に少なくなり、私の知る限り平安時代の繡仏作品は伝わっていない。再び繡仏が製作されるようになるのは鎌倉時代以降であり、阿弥陀信仰に関わる作品を中心に作例を見ることができる。この時代、当麻曼荼羅を織ったとされる中将姫に対する信仰が盛んとなり、一針一針刺繍をする作善が中将姫を想起させ、繡仏の復活を見たのではないかと思われる。

この作品は全面を刺繍で表した作品で、中世の繡仏としては大作に属する。画面は上中下の三段に分けられ、上段は飛天や楽器、及び『法華経』と『大無量寿経』の偈、中段は釈迦如来と阿弥陀如来の立像、下段は迦陵頻伽が遊ぶ蓮池を表している。釈迦・阿弥陀像は蓮華座に立ち、宝相華文を透彫した豪華な光背を負い、頭上には天蓋を掲げている。仏前には華瓶一對と前机に載る獅子形香炉が見られる。このような表現から実際の仏像を写したのではないかと推定される。刺繍糸は絹糸を主とし、仏像の頭髮や袈裟の一部と偈に人の頭髮を用いている。刺し繡、留め繡、こま繡、まつい繡などの刺繍技法が用いられており、刺繍表現は精緻である。

釈迦と阿弥陀の二尊は、この世から往生者を浄土に送る釈迦と、浄土で往生者を迎える阿弥陀を表したものである。阿弥陀浄土への往生を祈願した人物が日々礼拝した本尊であったと思われる。

内藤 栄（当館学芸部長補佐）

◆西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて4月7日から5月13日まで展示

### 開館日時（4月～6月）

〔開館時間〕

午前9時30分～午後5時

〔開館時間延長日〕

午後7時まで

4月27日（金）・28日（土）

5月4日（金・祝）・5日（土・祝）・11日（金）・12日（土）

18日（金）・19日（土）・25日（金）・26日（土）

6月1日（金）・8日（金）・15日（金）・22日（金）・29日（金）

※いずれも入館は、閉館の30分前まで

〔休館日〕

毎週月曜日（休日の場合はその翌日、連休の場合は終了後の翌日）

〔臨時開館日〕

4月30日（月）、5月1日（火）

### 観覧料金

#### 名品展・特別陳列

	一般	大学生	高校生以下
個人	500円	250円	無料
団体	400円	200円	無料

※団体は20名以上です。※満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料です。

※5月5日（土）こどもの日、5月18日（金）国際博物館の日は、名品展が無料でご覧いただけます。

#### 特別展 解説上人 貞慶

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人（当日）	1,200円	800円	500円
団体	1,100円	700円	400円

※団体は20名以上です。※障害者手帳をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料です。



●バス停

〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等（有料）をご利用ください。

**奈良国立博物館**  
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50（奈良公園内） ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ（PC用）<http://www.narahaku.go.jp/>（携帯用）<http://www.narahaku.go.jp/mobile/>

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は90円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。

